



入学太鼓 (Trống khai giảng)を打つ古田学長

2025-2026 入学式を開催！新たな門出を迎えた 800 名の新入生たち

10月11日、日越大学はホアラックキャンパスにて入学式を執り行い、学士課程、修士課程、博士課程、合計約 800 名の学生を迎え入れました。2025-2026 年度から、日越大学は新たに3つの学部（半導体チップ技術プログラム、インテリジェント制御とオートメーション、グローバル開発とイノベーション）、1つの修士課程（コンピュータサイエンス&エンジニアリング）、1つの博士課程（日本学・日本語教育）を開設し、2,000 人近くの学生を擁する大学になりました。



入学式を楽しむ新入生

今月号の内容

- 2025-2026 入学式を開催！新たな門出を迎えた 800 名の新入生たち
- 進学も留学も！大阪大学におけるプログラム説明会の開催
- 国際会議 ICIS2025 開催！日越大学で国際研究交流
- 日本語教育プログラム（JLE）の教員による国際学会における研究発表
- 高等教育チーム調査団 次期フェーズの詳細策定調査
- [JST NEXUS Y-tec] 宇部工業高等専門学校、九州大学と交流、半導体について議論
- 国家宇宙センターを訪問。教育・研究面での連携について協議
- 2025 年ベトナム国際イノベーション展に参加
- 国家・企業・大学の連携が切り拓く ベトナムの半導体人材育成ビジョン

▶進学も留学も！大阪大学における ASEAN キャンパス事業の説明会の開催

10月7日、大阪大学によるプログラム説明会が開催され約30名の学生が参加しました。10月6日には、大阪大学の坂口志文特任教授のノーベル生理学・医学賞受賞が発表されたこともあり、まさに大阪大学への注目が高まる中での実施となりました。大阪大学 ASEAN キャンパス事業の概要が紹介され、昨年、同事業の一環（OUICP-S プログラム）で大阪大学に1か月から3か月滞在した日越大学のコンピュータサイエンス&エンジニアリングプログラムの学生2名が経験談を共有しました。身近な先輩の経験談を聞いた参加者からは、同プログラムの申請方法や研究内容など具体的な質問も多く寄せられ、将来の留学や進学を見据えた意欲的な学生の姿が印象的な説明会となりました。



The poster features the logos of Osaka University and VNU Japan Center. The title is 'Opportunities to Study at The University of Osaka—Information Session'. Below the title, it states: 'For VJU undergraduate & graduate students interested in studying in Japan'. The main text reads: 'Representatives from the Institute for International Initiatives, The University of Osaka will introduce opportunities to study at UOsaka.' It lists topics to be discussed: 'At the session, you will learn about: Exchange opportunities: short-term, semester, and one-year exchange programs; Graduate programs: Master's & PhD, available in both English and Japanese; Scholarships & financial aid: MEXT, tuition waivers, and other supports; Graduate application process: steps & preparation'. The date is 'Date: 2025.10.7 (Tue)', time is 'Time: 14:00~', and location is 'Place:'. At the bottom, it says 'Organized by: R&D Promotion and Cooperation Development Office VNU Vietnam Japan University'.

▶国際会議 ICIS2025 開催！日越大学で国際研究交流

10月12日、日越大学ミーディンキャンパスにおいて、第1回イノベーションとサステイナビリティサイエンスに関する国際会議 2025（ICIS2025）が開催されました。本会議は「AI（人工知能）時代における環境・気候レジリエント開発に関するイノベーションと持続可能な発展」をテーマに掲げ、世界8カ国から学部生や大学院生を含む200名を超える研究者が参加し、約90件の研究論文が発表されました。午前の基調講演では、この会議を主催する日越大学、立命館大学、茨城大学から、それぞれ Mai Trọng Nhuận 教授（修士課程気候変動・開発プログラム ディレクター）、橋本征二教授（立命館大学）、三村信男教授（茨城大学）が最新の研究成果と革新的な解決策を紹介しました。午後は、ポスターセッションや、気候変動分野と環境工学分野の平行セッションが行われ、活発な議論が展開されました。2日を通じて数々の最新の研究成果が共有され、会議の最後には優秀発表者が選出されました。



次回の ICIS2026 は「高等教育における国際化と持続可能性」をテーマに 2026 年 6 月に開催予定です。公式ウェブサイトにて参加申込を受け付けています。ぜひご参加ください。
ICIS 公式 Web サイト: <https://icis.vju.vnu.edu.vn/>

▶ 日本語教育プログラム（JLE）の教員による国際学会における研究発表

8月19日と20日に、カナダ日本語教育振興会 2025 年次大会（CAJLE ; Canadian Association for Japanese Language Education）がブリティッシュ・コロンビア大学（バンクーバー）にて開催されました。テーマは「デジタル時代の教師の役割」であり、この時代における日本語教育と日本語教師の新たな役割を中心に研究発表が行われました。JLE からは 4 名の教員の研究が査読に通り、Lê Cẩm Nhung 講師と齊藤真美 JICA 専門家がそれぞれ個人発表を行い、Nguyễn Việt Thi 講師と山川史 JICA 専門家は共同発表を行った。2 日間の学会を通して、カナダ、日本、香港などの日本語教育教員および研究者との積極的な意見交換が行われ、国際的なネットワークが広がり、有意義な時間となりました。



カナダ日本語教育振興会 2025 年次大会にて



宮崎里司教授と

9月28日には、早稲田大学にて「早稲田大学日本語教育学会」が開催されました。この学会は世界各地の日本語教育関係者が集結し、お互いの研鑽を積む機会の場となっています。JLE からは、Nguyễn Thị Thu Hương 講師、Nguyễn Thị Thùy Dung 講師、山川史 JICA 専門家の 3 名が、ウェルビーイングの視点を取り入れたカリキュラム評価について合同発表を行いました。当日は学会参加者からだけではなく、早稲田大学大学院日本語教育研究科の宮崎里司教授（日越大学日本語教育プログラム共同ダイレクター）もかけつけてくださり、有意義なコメントをいただきました。次回の研究に向けての具体的な目標ができ、今回の発表はさらなる研究の質的向上へとつながるものになりました。なお、この研究は JICA リサーチグラントの支援を受けました。

▶ 高等教育チーム調査団 次期フェーズの詳細策定調査

9月29日から10月3日まで、JICA 人間開発部高等・技術教育チームから調査団が派遣され、2026 年 9 月に開始される日越大学プロジェクト次期フェーズの詳細策定調査が実施されました。最終日には、協力の枠組について日越大学と合意し、MINUTES OF MEETINGS 及び技術協力の基本文書となる R/D（Record of Discussions）案に、日越大学 Nguyễn Hoàng Oanh 副学長と高等・技術教育チーム井上課長がサインを行い、ベトナム国家大学ハノイ校 Nguyễn Hiệu 副学長が Witness として署名しました。

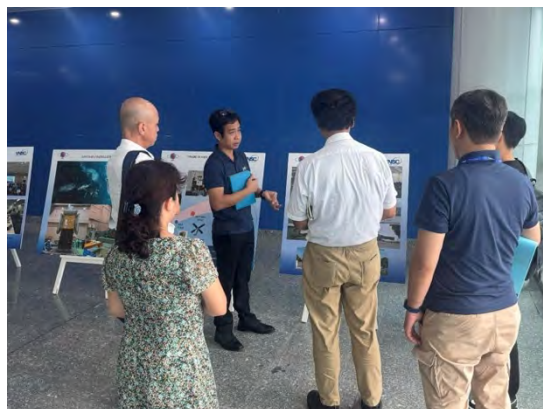
▶[JST NEXUS Y-tec] 宇部工業高等専門学校、九州大学と交流、半導体について議論

9月23日、宇部工業高等専門学校、九州大学の教員および学生の一行が、日越大学を訪問し、交流を行いました。午前中はホアラックキャンパスの視察が行われ、日越大学の学生が設計・組立・プログラミングを行ったロボットでのサッカーを楽しんだり、温室モデルを観察したりするなど、大いに盛り上がりました。技術・工学分野、特に半導体分野の教育に関心を共有する両国の大学は、半導体チップ技術プログラムを支援している宇佐川毅学長特別補佐（JICA 専門家）と意見交換を行いました。宇佐川特別補佐は、米国で開発された最初の汎用コンピューター「ENIAC」がどのように半導体研究を促進したのか、半導体が交通信号機などに応用されてきた歴史、そして世界における産業発展の流れまでを、臨場感あるストーリーとして紹介しました。宇部工業高等専門学校、九州大学との交流は日 ASEAN 科学技術・イノベーション協働連携事業(NEXUS) 若手人材交流プログラム (Y-tec) を通じて行われているものです（交流計画ページ: <https://www.jst.go.jp/aspire/nexus/y-tec/theme/2024/vol040.html>）。2025年3月にはこのプログラムを通じて日越大学の学生3名と職員1名が訪日しました。（参考: [メルマガ 2025年4月号](#)）



▶国家宇宙センターを訪問。教育・研究面での連携について協議

10月6日、宇佐川毅学長特別補佐をはじめとする視察団が、ホアラックハイテクパーク内のベトナム国家宇宙センター（VNSC）を訪問しました。VNSC はベトナムの宇宙開発を担う国立の機関で、JICA が有償資金協力により地球観測衛星の開発・利用に必要な関連施設を調達・整備し、それらの施設で衛星観測データの利用が行える人材育成を支援しています。当日は、VNSC の活動概要についての説明を受けた後、施設内のクリーンルームなどの研究設備を見学しました。本訪問は、VNSC の設備や専門性を日越大学の教育・研究との連携できるかを検討することを目的としたものです。2025年に開設された学部半導体チップ技術プログラムをはじめ、先端工学・技術学部・研究科での人材育成面での協力や共同研究の可能性について意見交換が行われ、今後も連携に向けた協議を継続していく予定です。



VNSC の Dr. Huy から説明を受ける
宇佐川毅学長特別補佐と視察団

▶ 2025 年ベトナム国際イノベーション展に参加

10月1日から3日までの間、ホアラック国家イノベーションセンター（NIC）で2025年ベトナム国際イノベーション展（Vietnam International Innovation Expo 2025）が開催されました。10月1日の開会式後には、Tô Lâm 書記長、Phạm Minh Chính 首相、伊藤直樹ベトナム国駐劬特命全権大使らが、日越大学のブースを訪問しました。ブースでは、学生たちが開発した「スマート農業用グリーンハウスモデル」「ドローン」「学生自ら設計したマイクロチップを搭載したロボット」などの革新的な技術製品が展示されました。Tô Lâm 書記長は「日越大学が、今後もベトナムのみならず日本にとっても優秀な人材を育成する拠点としての役割を果たすと確信している」と述べました。

展示会の期間中には、イノベーション政策、戦略的産業分野、高度人材育成、STEM教育推進などをテーマとした多くのフォーラムや専門セミナーも開催され、その中でも特に「国家イノベーション政策フォーラム」が注目を集めました。このフォーラムには宇佐川毅学長特別補佐も登壇し、イノベーションの多くは Seed：大学におけるスタートアップ育成、Need：大学と企業の連携強化から発生しますが、アイデアコンテストなどを通じた新しい発想の発掘 (Idea) から起こることがあり、これら3方向からイノベーションを創出する、大学を中心とした持続的なエコシステムの構築を目指すべきだと強調しました。



2025 年ベトナム国際イノベーション展（Vietnam International Innovation Expo 2025）の様子

▶ 国家・企業・大学の連携が切り拓く ベトナムの半導体人材育成ビジョン

10月14日、JICA ベトナム事務所は半導体チップ技術プログラムダイレクター Bui Nguyên Quốc Trình 准教授と同プログラムを支援している宇佐川毅学長特別補佐 (JICA 専門家) を招待し、記者会見を開催しました。この会見では、ベトナム政府が掲げる「2030 年までに大学以上レベルで半導体人材 5 万人育成」という目標と、その実現に向けた国家・企業・大学の三者連携の重要性が議論されました。

ベトナム政府 2030 年までに少なくとも 5 万人の半導体人材（大学以上レベル）を育成するという国家目標を掲げています。これに対し、宇佐川特別補佐は、この目標は「国家・企業・大学の三者が緊密に連携すれば不可能ではない」と述べました。また、半導体は学際的な分野であり、1 つのプログラムで全ての知識・スキルを網羅することはできず、大学、研究所、企業の連携が必要であること、現段階では、設計・パッケージング・テスト分野に焦点を当てた人材育成が急務であり、これと並行して、将来的にエコシステムを完成させるためには、チップ製造工程に関する専門知識を持つ人材も不可欠となることなども指摘しました。

日越大学の半導体チップ技術プログラムでは毎年 100 名程度の学生の受入を予定しています。日越大学は 2030 年までに約 400 名の半導体エンジニアの育成を通じて、ベトナム政府が掲げる目標に貢献していきます。



記者会見の様子

■ 日越大学の情報発信

日越大学ホームページ

<https://vju.ac.vn/>

日越大学 Facebook

<https://www.facebook.com/vnu.vju/>

JICA プロジェクトページ（ODA 見える化サイト、メルマガのバックナンバーもこちらから）

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1901195/index.html>

■ 産学連携・採用に関する問い合わせ

E-mail: cooperation@vju.ac.vn

■ メルマガに関するお問い合わせ

E-mail: mail.magazine@vju.ac.vn

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクトメルマガ編集部

【メール配信停止・変更】

配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、上記問い合わせ先までメールにてご連絡ください。

JICA 日越大学教育・研究・運営能力向上プロジェクト